

議会報告「市民との意見交換会」記録

日 時：平成 29 年 11 月 16 日（木） 19:30～21:00

場 所：議員協議会室（議会棟 2F）

参加者：播磨農業高等学校 P T A（8 名）

北条高等学校 P T A（7 名）

1. 開 会
2. 議長挨拶
3. 団体代表挨拶
 - ・播磨農業高校 P T A 会長
 - ・北条高校 P T A 会長
4. 出席者自己紹介
5. 報告及び意見交換

【第 1 部 議会報告】

○テーマ「平成 29 年 9 月議会報告」

問) 賛成多数で可決している「議案第 61 号」について。丸岡議員と井上議員は、反対されている。反対の理由が聞きたい。

答) 各地域の説明会で多く出た反対意見や決議書、約 1,700 筆の反対署名の問題に対し、特に慎重かつ丁寧な議論や審議が必要であり、答申にある「保護者、地域の声を十分に聞いて進めること」が実施されていない。また、総合計画や行革プラン、公共施設等総合管理計画に明記されていない北部公民館の土地取得や建設事業費を明確に示さないままの予算計上は時期尚早である。

意見) 説明ありがとうございました。私が言いたかったのは、報告や資料説明を市民へ丁寧にさせていただきたい。先ほど質問をしたら、「議会だよりに書いてあるやないか」などと言いつつのではなく、市民は議会だよりの全てを隅から隅まで見ていないので、丁寧に説明していただきたい。

【第 2 部 意見交換】

○テーマ「それぞれの高校の活性化と課題について」

(播磨農業高校からの意見)

実習施設の老朽化や実習現場で使用している農機具等も 40 年近く古い機械を

使用している。PTAも年一回だけではあるが、現場施設や機械などを見て確認している。また、先日の台風で施設や農作物の被害が出ている。施設の更新や費用は高額となっており、県費での支援もなかなか厳しい状態である。出来れば最新の設備や機械での実習の機会を増やしてやりたい。

そして、高校の特徴でもあるが、生徒のほとんどが寮生活をしており、近年は女子生徒の数も増えて全体の6割となっている。ただ、その寮も古くて、これまで男子校（男子寮）として使用されていたために、風呂が狭いなどの色々な問題が多くあるので改善してほしい。学校としても生徒達を出来るだけ地域へ出させて貢献や活動・PR等もしているが、市民の皆さんや議員さんにも、播磨農業高校のことをもっと知っていただきたい。

（播磨農業高校からの意見）

農業高校であるにもかかわらず進学率が高く、農業関係に就職する学生が少ないのが現状。学校の方針としても若手農業者の育成を掲げているが、なかなか農業就職が難しいために、加西市の「ふるさと創造会議」等を利用した農業経営や放棄田対策が出来ないのかもっと考えて欲しい。

（議会答）

先ほどのご意見や要望は、高校が県であるために市がどうこう出来ないが、県の教育委員会へ積極的に陳情しに行くことも方法の一つである。新聞で播磨農業高校の取り組み「播磨のちっちゃな台所」の記事があった。大変良いことで、これからは6次産業化を考え、レストランの経営や実地で学べる経験や機会が出来るのであれば播磨農業高校の人気も高まると思う。

（北条高校からの意見）

事前に通告していた質問。一つ目は、播磨農業高校と北条高校への支援協力についてとして、加西市が取り組む施策の中での具体的支援や協力体制は。二つ目は、北条高校アフタースクールゼミ事業への今後の考え方や方向について。三つ目は、教育費に対する市の助成制度について質問。

（議会答）

支援については、北条高校活性化協議会への主な支援として、アフタースクールゼミ事業、通学バス事業、国際交流事業、PR事業（広報誌・HP更新）、県への陳情活動などの補助。播磨農業高校については、播磨のちっちゃな台所事業など個々に支援している。方向性については、平成30年度から3年間は引き続

き支援をする予定。

(北条高校からの意見)

通告していた補助制度について説明をお願いしたい。

(議会答)

教育費に関しては、経済的理由により就学困難な者に対しての奨学金制度があり、世帯収入が少ない家庭に、一人当たり月額6千円支給される。その他、奨学金返済をしている方が加西市へのUターンや移住者に対して補助制度がある。

(議会答)

今の班長の答えでは、北条高校だけの問題を取り上げた形になっている。班長が冒頭に県の高校や施設だから市としては何も出来ないとの発言があったが、それは間違っている。どちらの高校の意見や要望に対しても議会としても取り組む姿勢を持っている。また、皆さんから求められているのは、加西市議会としての考え方を求められている。具体的に、全国では農と関連した地域おこし協力隊の女性が活躍している。播磨農業高校の活性化は、加西市はもとより兵庫県、全国を支える姿となる。施設老朽化・農機具の更新や開発支援は、議員全員で力を合わせて、市行政や県・国へ要望や支援活動をしていきたい。

(北条高校からの意見)

役員をすることで生徒達と接する機会が多くなった。そこで感じたのが、もっと子ども達に積極性を持ってもらいたい。では、どうしたら力がつくのか考えると、まず子どもに一番の影響がある保護者にもっと積極性を持ってもらいたい。小中の連P活動を通じて、保護者の積極性を高め、市は積極性のある保護者へとなるべく講演会の充実や教育支援して欲しい。

(議会答)

中学校の校長をしていた時に両校へ多くの子ども達を送った。基本的に、中学校から高校へ行く時からやりたいことや夢をもつことが大事。また、小野高校へ行く予定だった子どもを学年主任が北条高校へ行けと言ったことで北条高校へ行き、最終的に国立大学へ行った。進路の決定は、本人の意思だけでなく、周りからの力の影響を受けるのも大きい。

(議会答)

自分が北条高校に在籍していた時、大学のグリークラブが高校へ来て歌ってくれたことで自信がついた。卒業生やOBから影響を大いに受けた。過去には、北条高校OBの心臓外科医の講演や建築家の講演、イグノーベル賞の東山先生などを呼んだ。これからも立派なOB講師を呼んで話を聞く講演の機会を増やすことが大事。

(北条高校からの意見)

綺麗な話ばかりではない。議員に反対意見。多くの子どもが市外への進学している現状。家や村、墓を守ろうとする子ども達は、地元の高校へ行かないと加西へ帰ってこない。菅野前校長が市内外の中学校へ随分と声掛けをされた。しかし、中学校管理職が勧めても現場の担任などの先生が北条への進学を反対する現状がある。教育委員会や現場の担任の先生へしっかりと指導してほしい。

(北条高校からの意見)

進学をさせたい親は小野や西脇の高校へ子どもを行かす。教育委員会へお願いしたいのは、保護者に北条高校の良さや現状をもっと伝えてほしい。先生にも働きかけて欲しい。アフタースクールゼミは、後3年は大丈夫と言われたが、これからも引き続き継続してほしい。

(北条高校からの意見)

中学トップクラスからは、現実に北条高校が敬遠されている。加西市では、小中学の頃から勉強が出来る生徒は放ったらかしにされている。先生方は、生活態度はよく見ているが、勉強を見てくれない。義務教育の段階から勉強を教えてくれないので、まずはそこから変えていかないといけない。何とかしてほしい。

(議会答)

現状は、3年間ということであるが、これからも議員であれば後押しをしていきたいと思う。担当課の話では、まだ神戸大学以上の難関大学へ行っていない等の成果が出ていない。今年の人間創造コースが結果を出してくれると期待しており、一つの勝負であると考えている。

(議会答)

今、義務教育の問題で色々話があった。先日、北条高校卒業で広島大学卒、リ

コーの社長さんにお出會いました。笑顔がいい。学力が全てではなく、努力すれば義務教育の間に人間性を磨くことで立派な人になる。北条高校の活性化は、地域が盛り上げないといけない。県にも当然お願いはするが、先生方にいくらお願いしてもダメ。お母さん方や子ども達が笑顔でしっかりと学校教育に取り組んでいけばいい姿になる。それに対しては、市行政としても応援していく。

(播磨農業高校からの意見)

播磨農業高校は、農業校で進学校ではないので、これまでの議論になかなかみ合わないと感じた。保護者の地域的なこともあり、PTAの体制が整っていない中で要望活動をしろといわれてもなかなかできないし、普段から播磨農業高校を見ていただけてないし、関心を持っていただけてないと思う。進学校の話ばかりになっているが、農業学校の一つとして県下でも大変評価されている現状や加西市にある高校でもあるので、もっと関心をもっていただきたい。

(播磨農業高校からの意見)

北条高校の話がメインとなっている。班長から県へ陳情されていないと指摘されたが、我々も加西市民であり播磨農業高校も加西市にある。北条高校と同じ加西市にある学校として議会も関心を持って一緒に盛り上げてほしい。

(議会答)

確かに、高校は県の所管であるが、議会としてもしっかりと県・国への要望活動をしていきたいと思う。また、幼稚園・義務教育の段階からのしっかりと教育に取り組むよう行政へ伝えていきたいと引き続き考えている。

(播磨農業高校からの意見)

せっかくの奨学金の補助や市の制度が市民へ知らされていない。年度ごとの補助申請のタイミングの改善をお願いしたい。近隣に出ている人達にも様々な制度をPRしてほしい。それが加西市の少子化対策につながると思う。

(議会答)

北条高校出身であるが、アフタースクールゼミ事業については、議会でも厳しい意見を言っている。子どもが行きたい高校へ行かせるべき。無理に北条高校へ行かせることはない。高校に入る以前に、自分が何をしたいのかということを確認にする必要がある。今、アフタースクールゼミに補助を出しているが、その分を中学校の段階で投資をすれば、学力の向上や自分がやりたいことが見つかる。

自分の行きたい高校へ進めばよい。また、全員が事業を利用していないことや河合塾の先生が授業をしていなくて大学生が授業をしているなど問題がある。限りある財源を有効に利用し、PTAの方にも参考人として議会へ出てきていただいて、この問題に対してもっと議論したい。

(議会答)

行政は、予算をつけたところにしかお金をつけることが出来ない。年度ごとの補助申請のタイミングの改善は執行者にも伝えたいと思う。また、小野市の事例もあるので加西市も融通が出来ないか質してみたいと思う。

(議会答)

播磨農業高校にも北条高校の支援と同じようなことができないかと議会でも話は出ている。アフタースクールゼミや通学バスの問題なども一緒にできないか手助けを考えている。

6. 閉 会